

令和 3 年 6 月 22 日現在

機関番号：13901

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）

研究期間：2017～2020

課題番号：16KK0078

研究課題名（和文）監査の質に関する国際的総合研究：日米中の実態と比較（国際共同研究強化）

研究課題名（英文）The Comprehensive Research for Audit Quality: the Case of Japan, USA and China, (Fostering Joint International Research)

研究代表者

仙場 胡丹 (Semba, Hu Dan)

名古屋大学・経済学研究科・准教授

研究者番号：10386667

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 11,000,000円

渡航期間： 18ヶ月

研究成果の概要（和文）：本研究は、各国における学術的・政策的「監査の質」への研究に対する需要の高まりを背景に監査の質に関する国際的総合研究であり、理論・制度・実態・実証の研究アプローチを用いて、監査の質に関わる概念的構築、評価フレームワークと実証的測定を日米中において、多方面から行おうとしているものである。その研究成果として、これまでの【研究業績】欄から確認できるが、学会発表4回（うち、国際学会2回）、7編の論文の公刊が挙げられる。特に、国際学会で「Best Paper Award」を受賞し、また関係論文がSSCI (Social Sciences Citation Index) 雑誌に掲載されている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

グローバルな連鎖を見せた近年の世界規模の金融危機や会計・監査不祥事を防ぐことが社会的に重要な課題であり、また、学術的に、「監査の質」への研究に対する需要の高まりがあった。そこで、本研究では、監査の質に関する理論・制度・実態・実証の研究アプローチを駆使しながら、監査の質に関わる概念的構築、評価フレームワークと実証的測定を日中米において、行おうとしている。研究成果は、学会発表4回（うち、国際学会2回）、7編の論文の公刊が挙げられる。特に、国際学会で「Best Paper Award」を受賞し、また関係論文がSSCI (Social Sciences Citation Index) 雑誌に掲載されている。

研究成果の概要（英文）：This research is a research for Audit Quality using Japanese, USA, and China's data in the three countries' environments. The project is finished successfully. The achievement in this research includes 4 presentations in conferences, 7 papers. Especially, as a achievement of this research. A paper is received a Best Paper Award. And the revised of that paper got published in a SSCI Journal.

研究分野：会計

キーワード：会計 国際会計 監査 実証

1. 研究開始当初の背景

グローバルな連鎖を見せた近年の世界規模の金融危機や会計・監査不祥事を背景に、企業が開示した財務報告の質をサポートする「監査の質」の重要性が世界規模で再認識された。こうした世界規模での実務的ニーズに対応する、各国における学術的・政策的「監査の質」への研究に対する需要の高まりがある。

2. 研究の目的

本研究では、監査の質に関する国際的総合研究を敢行し、理論・制度・実態・実証の研究アプローチを駆使しながら、監査の質に関わる概念的構築、評価フレームワークと実証的測定を全世界の範囲において、多方面から行うことを目的とする。

3. 研究の方法

具体的には、国際共同研究の利点を活かし、既実施中の科研を下記の4点の側面から発展させ研究を行う。第1に、哲学的視点を取り入れながら日米欧中の先行研究や規制当局の視点を参考にし、「監査の質」の概念的構築を行う。第2に、「監査の質」の評価フレームワークについて日英米中学界や規制当局のものを整理し分析・考察する。第3に、全世界範囲の各国の文献を渉猟し、国際共同研究者とも議論をし「監査の質」の測定方法の提示をする。第4に、「監査の質」の測定方法を用いて、GDPのトップ3国である日本・米国・中国の監査市場における監査の質を実証的に分析し比較する。

4. 研究成果

その研究成果として、これまでの【研究業績】欄から確認できるが、学会発表7回（うち、国際学会4回）6編の論文の公刊が挙げられる。特に、国際学会で「Best Paper Award」を受賞し、また関係論文がSSCI (Social Sciences Citation Index) 雑誌に掲載されている。

SSCI 雑誌の論文について、少々触れると、下記ようになる。

「規制当局にとって経営者に経営予測情報をルールなどに基づき「強制的に」開示させる方が良いのか、経営者による「自発的な」経営予測情報の開示に任せる方がよいのかという重要な政策的・実践的テーマに取組み、当該テーマへの検証が可能である中国市場における経営予測情報などの分析を通じて、自発的開示の方が、経営者予想の予測正確性、そしてモデルに基づく将来情報への予測力という2つの側面において、強制的開示よりも優れていることを発見しました。」(名古屋大学プレスリリース 2021年3月2日付け、仙場作成より抜粋)

また、具体的に、本研究の目的の下、国際共同研究を行っている。現時点で、その成果として、下記の論文の2つの中国語による論文がある。特に、「会計事務所の規模と監査の質に関する日中比較研究」は、本研究の研究成果のうち、日本と中国の比較研究を行ったものとなる。具体的な研究成果のひとつとして、「会計事務所の規模と監査の質に関する日中比較研究」より、表2を抜粋させていただく。日本において、他の先進国と同様に、4大監査法人が占める市場規模(クライアント数での)が70-80%であるが、PwCのクライアント数が他の先進国と比べると、極端に少ない。それに対して、中国では、いわゆる国際的4大監査法人が市場規模(クライアント数での)の5%しかないということが表からみえる。

さらに、本研究の成果の一つの Semba, Hu Dan and Kato, Ryo, “Does Big N Matter for Audit Quality? Evidence from Japan,” Asian Review of Accounting, Vol. 27, Issue 1 (March 2019), pp. 2-28. 査読有り。について、紹介すると、下記ようになる。日本の監査市場における監査の質の分析を行うものである。具体的には、日本の監査市場において、監査の質における BigN vs. Non-BigN の差が存在しているのか、それがカネボウ事件の2007年の前と後では差が生じているのかについて検証している。2001-2011年の日本上場企業29771個の企業年度を用いて、また監査の質については裁量的発生高、利益ベンチマーク、事前的資本コスト、アナリストによる利益予想の正確性および継続企業の前提に関する注記情報の5つで測定され、またデータ分析には、傾向スコア・マッチング法が利用されている。主たる結果と

して、クライアントの特性（たとえば、系列であるか否か、外国での売上高比率、倒産リスク等）をコントロールすれば日本監査市場において大規模監査法人と中小監査法人との監査の質の差が認められなかった。また、2007年の前と後において、大規模監査法人と中小監査法人との監査の質の差に変化が認められなかったとしている。当該論文は、監査の質を多方面から測定する数少ない研究であり、日本市場を題材とする監査研究の蓄積を世界へ発信する役割が期待される。数多くの高水準の雑誌論文に引用されている。たとえば、たとえば、Al-Okaily (2020) (Managerial Auditing Journal, Emerald社); Ocak et al. (2020) (Borsa Istanbul Review, Elsevier社); El-Dyasty and Elamer (2020) (International Journal of Accounting & Information Management, Emerald社); Routledge (2020) (Asian Review of Accounting, Emerald社)がある。

表2 日本和中国的会计师事务所（“国际四大” vs. “其他”）的审计客户数的市场规模情况

年	“国际四大” (%) (审计客户数占市场比例)					“其他” (%) (审计客户数占市场比例)	审计客户数
	EY	Deloitte	PwC	KPMG	PwC		
<日本>	新日本	トーマツ	中央青山	あずさ	あらた		
2001	22.03	19.46	19.70	14.89		23.91	3,659
2002	21.61	20.37	20.37	15.09		22.57	3,957
2003	21.57	21.10	20.82	15.29		21.22	4,015
2004	20.70	21.61	20.90	16.15		20.63	4,086
2005	20.58	22.01	21.37	16.50		19.55	4,189
2006	20.97	21.71	20.13	17.29	0.46	19.90	4,302
2007	23.15	21.86	11.14	18.31	2.07	25.54	4,397
2008	26.59	24.95		20.73	2.28	27.72	4,076
2009	26.97	24.66		20.18	2.29	28.19	3,930
2010	26.19	24.72		19.42	2.34	29.66	3,810
2011	26.70	24.82		19.27	2.41	29.21	3,731
<中国上海・深圳>	安永	德勤		毕马威	普华永道		
2000	0.54	0.54		0.43	0.97	97.53	932
2001	0.50	0.99		0.60	1.89	96.03	1,007
2002	3.63	1.12		0.84	3.91	90.51	1,075
2003	3.25	1.14		0.79	3.25	91.56	1,137
2004	2.35	1.06		0.81	2.76	93.02	1,232
2005	2.26	1.53		0.97	2.50	92.75	1,241
2006	1.74	1.52		0.68	2.73	93.33	1,319
2007	1.89	1.26		0.98	2.74	93.12	1,425
2008	1.83	1.08		0.88	2.64	93.56	1,476
2009	1.73	1.11		0.80	2.34	94.02	1,622
2010	1.48	1.07		0.71	2.24	94.51	1,966
2011	1.55	1.23		0.64	2.23	94.35	2,194
2012	1.64	1.25		0.60	2.02	94.49	2,321
2013	1.39	1.39		0.59	1.90	94.72	2,366
2014	1.09	1.61		0.64	1.93	94.72	2,482
2015	1.38	1.38		0.52	2.06	94.61	2,672
2016	1.66	1.25		0.54	1.73	94.79	2,954
2017	1.53	1.41		0.60	1.62	94.80	3,326

出所：仙場胡丹・干胜道「会计师事务所规模与审计质量关系之中日比较（会計事務所の規模と監査の質に関する日中比較研究）」『财会月刊』2020年第1卷（2020年1月），表2．仙場作成より抜粋

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 5件／うち国際共著 4件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Hu Dan Semba; Ryo Kato	4. 巻 27
2. 論文標題 Does Big N Matter for Audit Quality? Evidence from Japan.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Asian Review of Accounting,	6. 最初と最後の頁 2-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1108/ARA-01-2015-0008	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 干勝道、程Ran、仙場胡丹	4. 巻 1
2. 論文標題 財務寛裕 概念創立と研究課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 会計之友	6. 最初と最後の頁 10-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3969/j.issn.1004-5937.2020.01.002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 仙場胡丹、干勝道	4. 巻 1
2. 論文標題 会計士事務所規模と審計質量関係之中日比較研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 财会月刊	6. 最初と最後の頁 93-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.19641/j.cnki.42-1290/f.2020.01.014	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Frendy; Hu Dan Semba	4. 巻 25
2. 論文標題 Does Recycling Improve Information Usefulness of Other Comprehensive Income? The Case of Japan.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Asian Review of Accounting	6. 最初と最後の頁 376-403
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1108/ARA-11-2015-0111	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fang, Fang; Semba, Hu Dan; Li, Jingchan	4. 巻 68
2. 論文標題 Management Background Characteristics and Stock Price Crash Risk	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『経済科学』第 68 巻第 1 号	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Zhang,Xiaobai; Semba, Hu Dan; Xu,Hong	4. 巻 28
2. 論文標題 Mandatory vs. Voluntary Disclosure on Management Forecast in China	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Asia-PacificJournal of Accounting & Economics	6. 最初と最後の頁 133-152
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/16081625.2020.1845003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計7件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 4件)

1. 発表者名 Xu, Hong
2. 発表標題 Mandatory vs. Voluntary Disclosure on Management Forecast in China
3. 学会等名 The 8th Conference of the World Accounting Frontiers Series (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 仙場胡丹
2. 発表標題 監査の実証研究 - 国際的視野を入れて -
3. 学会等名 名古屋大学 課題設定型ワークショップ「財務会計・管理会計」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 仙場 胡丹
2. 発表標題 IFRSの価値関連性：日本市場におけるパイロット・テスト
3. 学会等名 現代監査理論研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Semba, Hu Dan
2. 発表標題 A Study of Management Forecast Information
3. 学会等名 The 11th International Conference of THE JAPANESE ACCOUNTING REVIEW (国際学会) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hu Dan Semba
2. 発表標題 Audit quality and the size of audit firm
3. 学会等名 Nagoya Finance Workshop
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Gu, Junjian
2. 発表標題 How Do Auditors charge Audit Fees Based on Clients FDI Characteristics?
3. 学会等名 Europe an Accounting Association Annual Congress 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Gu, Junjian
2. 発表標題 How do auditors charge audit fees based on clients' FDI characteristics?
3. 学会等名 American Accounting Association Annual Meeting 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 古賀智敏編著、仙場胡丹	4. 発行年 2019年
2. 出版社 千倉書房	5. 総ページ数 478
3. 書名 会計研究の系譜と発展	

1. 著者名 浦崎直浩、仙場胡丹他	4. 発行年 2017年
2. 出版社 同文館出版	5. 総ページ数 320
3. 書名 中小企業の会計監査制度の探究 - 特別目的の財務諸表に対する保証業務 -	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	千 勝道 (Shengdao Gan)	四川大学・商学院・教授	
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	アベルカリック アーメドラッシュアド (Abdel-Khalik AhmedRashad)	イリノイ大学・会計学研究科・教授	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
中国	四川大学	商学院		
米国	イリノイ大学	会計学研究科		
中国	北京師範大学			